

リウマ伝は高野の分身が お客様のほうへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



リウマ伝

45号
2023年8月26日
高野 竜馬

「ばあちゃんへの復讐」

コロナが治ったと思っただけ、なんと同居のばあちゃん(母)が施設でコロナをもらってきて、オロオロした高野です。

「お熱があるので迎えにきて下さい」、デイサービスからの電話で、家内が迎えに行くと、グッタリ。他にも施設からコロナ患者が出たようで、覚悟して検査すると、やっぱり陽性…。

そうやってデイサービスに預けることも出来ず、我家での24時間の介護生活が始まったのでした。フッキーだったのは子ども達が夏休みだったこと、長男以外は1ヶ月前にコロナに罹り、おろ、家庭内に広がるリスクがなかったことでしょうか。

89歳のばあちゃんがコロナになったと言っていると周りは大そう心配してくれませんが、熱が2日間続いただけで、他は何の症状もありません。

ただ、ほんとうの問題はここからでした。高熱で2日間、眼が続けたばあちゃんは見事に生活が昼夜逆転。3日目から真夜中1時頃に目を覚まし動き回ります。認知症のおかげで一度気になると何度か同じ事の繰り返し。

明日は墓参りに行くつもりと数分毎にメガネやバッグを探し回ります。それが明け方6時近くまで繰り返さるのです。横の部屋で寝ている女房子どもに気づかれまいと極力、私も声を小さく

注意するのですが、みんなお見通しです。

「お父さん、切れと、たね、ばあちゃんに(笑)」と言われる始末。

それどころ2日も3日も睡眠削られたら切れますよ、誰だって朝7時、仕事の準備をしていると、いびきをかいている母が腹立たしく思えてきます。

そこで思いついたのが、ばあちゃんへの復讐です。

子ども達に、「いいか、ばあちゃんが起きてきたら、夜まで寝かすな。」と指示。

もう絵本は必要のない子ども達ですが、絵本を読んでもくれとかとか、折り紙を作ってくれとお願ひするよう指示したのでした。子ども達は忠実に私のミッションを遂行。

「もう寝かせて」という、ばあちゃんを日中、寝かせないことに成功したのでした。すると生活習慣は見事に元に戻ったのです。そしてそれまでは最低一晩に一回

トイレに行ってきたのが、疲れ果てたせいかわ、それすらも改善されたのでした。

めでたし、めでたし。こけでわつとデイサービスに復帰できると思っただけ6日目。

施設に預けようと抗原検査したら陽性反応。施設からも陽性反応があるのではと断られ、結局10日間、ばあちゃんを四六時中、介護するハメになったのでした。

「おられたらやり返す」ばあちゃんとの目撃い直々はまだまだ続きます。

つです。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com